

2019 甲州市 景観まちづくり ヒント集

景観計画の策定から7年、甲州市では「果樹園と歴史・文化が織りなす魅力あふれる景観を守り育む」を目標に、さまざまな取組みを行ってきました。「景観」という言葉は現在、広く多くの地域や人に浸透していますが、具体的に「なにを・どのようにすれば」良好な景観を育むことができるのでしょうか？

このヒント集には、これまで山梨県の広告賞や活動賞を受賞したまちづくり団体の紹介や、さまざまな事例を集め解説を加えたものです。市内の様々な景観の紹介や工夫例をはじめ、日々の暮らしの中で・小さなことから始められるアクションプランも掲載していますので、ぜひ身近な・できることから【景観まちづくり】にチャレンジしてみてください。



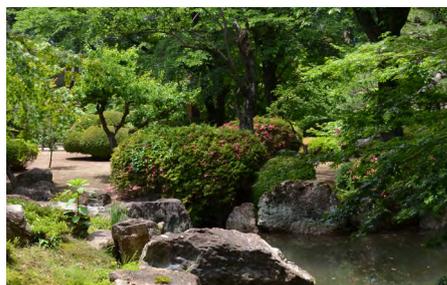
01

このヒント集は、皆さんの活動や取り組みを応援するものです

甲州市の気候・風土が育てた景観はここにしかない魅力です

景観は自然の地形やそれらが作り出す風土はもとより、先人たちや今を生きる市民の営みが作り出してきたものです。こうした甲州市らしい景観を次代に引き継いでいくためには、甲州市にしかない独自の景観要素を認識し、広く市民が共有することが大切です。

このパンフレットは、甲州市がこれまで取り組んできた「良好な景観を形成するための施策」を紹介するとともに、市民の皆さんに取り組んで頂きたいことやそのための具体的なヒントやアイデアをまとめたものです。ここからぜひ「やってみたいこと」「できそうなこと」を見つけ、できることからチャレンジしてみてください。



甲州市景観計画

平成24年12月に策定された甲州市の景観計画においては、景観形成のテーマ（基本理念）のもと、景観形成の基本方針が定められ、ゾーン区分ごとに景観形成の方向性が示されています。

【甲州市景観計画における景観形成のテーマ（基本理念）】

◎果樹園と歴史・文化が織りなす 魅力あふれる景観を守り育む

国が定めた景観法の基本理念の中には「良好な景観は国民共有の資産である」という一文があります。ものごとに対する価値観や評価は多様であっても、多くの人が心地よく感じ、大切にしたいと感じる「わが町の景観」は、市民ひとりひとりが町に愛着を持ち、それぞれのかたちで係わりをもつことが大切です。

景観計画は、地域固有の資源や特徴を尊重しながら、地域の産業・生活や活動や支援し、未来に向けより魅力的な景観を創造するためのものです。

甲州市の景観計画は市のウェブページで公開していますので、ぜひ一度目を通してみてください。

甲州市景観計画

平成24年12月策定
平成25年4月施行
平成27年3月変更
平成28年6月変更
甲州市

02

甲州市のこれまでの取り組み

一職員研修をはじめ、市民や事業者の方々との協働も推進しています

甲州市の景観まちづくり

●景観計画の策定から6年、着実に取り組みの成果が表れています

平成27年から始まった「駅から景観改善事業」は、色で景色を整える（ペンキ塗り）取り組みとして多くの市民が参加し、各地で魅力ある景観の創出が実現しています。

また、毎年開催している景観セミナーや文化的景観の学術調査・巡回展示（文化財課）など、取り組みや成果の紹介を通し、景観事業の普及・啓発に努めています。



・勝沼ぶどう郷駅前広がるぶどうの丘。目立っていた白いガードレールを「甲州ブラウン」（※P07参照）にペイントしました。



・平成30年のぶどうまつりでは、甲州市の景観に関するアンケートを実施。さまざまな取り組みの普及啓発に努めています。



・定期的な職員研修を実施し、実地踏査や甲州市らしい屋外広告物の評価や看板デザイン案の検討等も行っています。

甲州市サイン計画の活用

平成27年1月に策定された「甲州市サイン計画」に則り、駐車場サインに景観配慮色（※P07参照）を採用しました。公共施設の整備において良好な景観形成を先導すべく、わかりやすく質の高いデザインを検討、実践しています。



色彩景観づくりの手引きの活用

平成28年に作成された「甲州市色彩景観づくりの手引き」は、景観計画を推進するため、配慮事項に対するより具体的な工夫や事例を加えた解説版として作成されました。大規模建築物の事前協議等に活用されています。



03

甲州市らしい景観（各種受賞例）

一地域の産業や活動が、甲州市の「らしさ」として表れています

長く大切にしていきたい魅力や資源

山梨県が主催する「美しい県土づくり大賞」は、山梨県が世界に誇る自然景観や集落景観をはじめとする美しい県土を、さらに磨き上げ次の世代に継承していく活動等を表彰することにより、美しい県土づくりをより一層推進することを目的とし、平成24年度より実施されています。

甲州市では下記の通り、これまでにさまざまな活動や広告物の受賞歴があり、いずれも「甲州市の気候・風土、そして産業に根付いた良好な景観」の事例として、高く評価されたものです。



②

・原茂ワイン株式会社。ブドウ棚を支える鉄骨は「甲州ブラウン」に塗装され、落ち着いた色のある門構えとなっています。控えめな屋外広告物類はいずれも自然素材を活用しており、自然な暖かみや趣を感じさせます。



④

・機山洋酒工業株式会社。東山梨地区で栽培された葡萄のみを使い、家族だけでワインを造る地域に根ざした小さなワイナリーは、品の良い佇まいのみならず、さまざまな勉強・研究会活動を通じ地域に根ざしたワインづくりの普及や発展に貢献しています。

●活動賞・おしゃれな広告物賞（※平成29年度より名称変更）受賞歴

年度	賞種別	受賞者	活動内容・選評等	写真
平成25年度	おしゃれな広告物賞	勝沼醸造株式会社 (綿貫宏介)	外観の雰囲気合い時間と手間をかけてつくられるワインのように丁寧に設えられた看板	①
平成26年度	活動賞	原茂ワイン株式会社	ワイナリーと古民家を一体的に活用して、周囲のぶどう園にあった良好な景観を形成	②
	おしゃれな広告物賞	丸藤葡萄酒工業株式会社	白い壁面サインに花や草木の自然色で華やかさを演出、建物とも一体感があり、風情ある外観を演出	③
平成27年度	活動賞	機山洋酒工業株式会社	地域に根ざしたワイン造りという考えのもと研究会活動やワインツーリズム活動を実施。	④
	おしゃれな広告物賞	ワイン民宿鈴木園	古民家を利用した施設とその周辺のサインは落ち着きがありつつ、大変シンプルでわかりやすい表示	⑤
		ロリアンワイン白百合醸造 【吉岡寛之建築設計事務所】	サイン計画全体のバランスや制御の程度が大変洗練されており、是非訪れてみたいという気持ちにさせる外観	⑥
平成28年度	おしゃれな広告物賞	antique（美容室） 【スタジオ・ベルナ】	素材を生かし、外構計画と一体となった屋外広告物の「魅せ方」に優れた事例。	⑦
		甲州 完熟屋（飲食店）	自然素材を活かした屋外広告物は、統一的なイメージを持ち施設全体に展開	⑧
平成29年度	広告景観賞	株式会社塩山製作所 MGVsワイナリー	半導体部品製造工場をワイナリーに用途転換した特異な例。既存の外観や設備を活かし、窒素のタンクを広告物として活用するなど、随所に工夫された質の良いデザインが展開されている	⑨

※詳しくは山梨県県土整備総務課のウェブページをご覧ください。

●活動賞・おしゃれな広告物賞（※平成 29 年度より名称変更）事例



04 ひとりから・一軒からはじめる 景観まちづくり①

景観は暮らしを映し出す鏡です

道行く人や近所の方々から我が家やお店が見られることを考え、何かを工夫してみる・ちょっと配慮してみる。魅力ある景観づくりは、そんなひとりの・一軒の取組みからも始めることができます。

小さなアイデアも、人の目に触れる部分（店先や玄関周り）に何か変化があると、外観の印象が大きく変わります。出かけた際、良く行くお店を観察して真似してみたり、庭や畑で育てている植物をちょっと飾ってみる。そんなちょっとした工夫が、お隣りへ・ご近所一体に広がっていくと、まちを歩く楽しみが増えると思いませんか。

12頁以降には、より詳しい工夫の事例やポイント紹介しています。ぜひ合わせてご覧下さい。



統一感のある
洗練された緑



落ち着いた
外装色



趣のある
木製建具



メニュー
を想像させる
看板

【参考】色選びに困った時に役立つ「万能色」はこんな色です

住宅や店舗の手摺や柵、畑周りのフェンス等の色については、国土交通省が発行する「景観に配慮した道路付属物等の整備ガイドライン」に掲載されている4つの推奨色のお手本にすることをお勧めします。

屋外空間における「地となる色」を穏やかで落ち着いたのある色調に整えることで、街路や沿道の連続性やまとまりをつくりだすことができます。

この4つの推奨色は、例えば一般的なフェンス等の既製品の標準色にもラインナップされていますので、カタログから製品を選ぶ際にも参考にしてみてください。

・4つの推奨色

オフグレー 5Y 7.0/0.5 (25-70A)	グレー ベージュ 10YR 6.0/1.0 (19-60B)	ダーク ブラウン 10YR 3.0/0.5 (19-30A)	ダーク グレー 10YR 2.0/1.0 (19-20 B)
---------------------------------	---	---	---

5Y 7.0/0.5
(25-70A)



この記号は日本塗料工業会が発行する塗料用標準色見本帳（通称：にっとこう）に記載されている色記号です。塗料の場合は、この記号で注文・指定をすることができます。



甲州
ブラウン
(※)

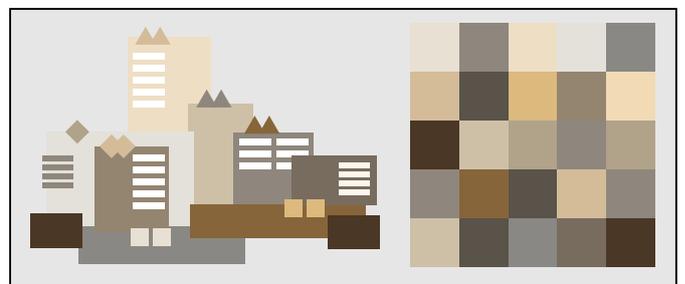
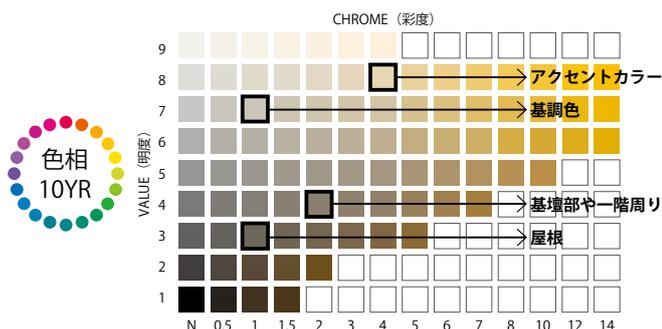
10YR 4.0/1.0
(19-40B)

甲州市では、2014年度より「色による景観改善事業」に取り組んでいます。遠景からも目立つ人工的な防護柵を、穏やかなブラウンにすることで周辺の田園風景が引き立ち、印象的な景観をつくることに寄与しています（安全性には十分な配慮が行われています）。※この色はブドウの枝に近似していることから、市ではこれを甲州ブラウンと名付け、広く市民の皆さんに親しまれることを期待しています。

【参考】色の組合せに困った時に役立つ「調和した印象」を与える配色事例

■調和した印象を与やすい色相調和型の配色

1つの建物には、使用する色相を揃えた『色相調和型』の配色を選択することが、調和ある景観を創出するための基本となります。



色相調和型（しきそうちょうわがた）の配色

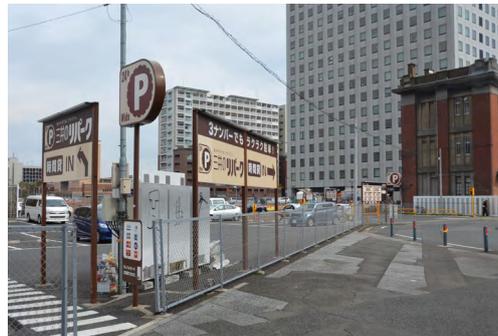
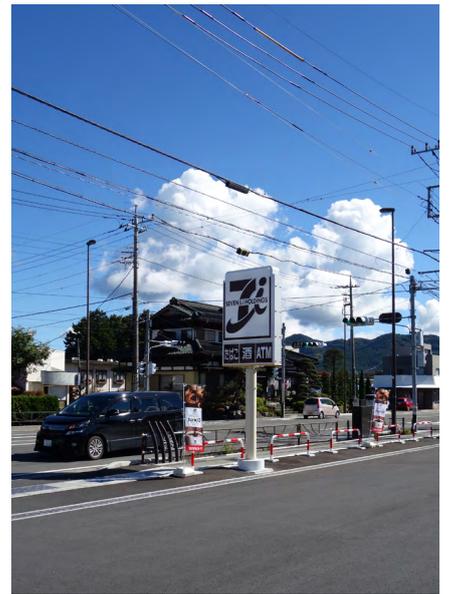
一つの色相または類似の色相を使いトーンに変化を持たせる配色です。木や土を建材として使用していた日本の伝統的な街並みはYR（イエローレッド）系を中心とした色相調和型が多く存在します。

05 ひとりから・一軒からはじめる 景観まちづくり②

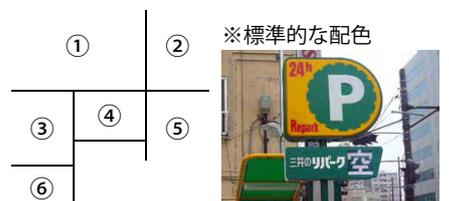
時代の変化にも目を向け、地域の魅力を高めましょう

地域の特性や個性に合わせ、その場にふさわしい外観を考えたり、地域の魅力を高めるような屋外広告物を設置したりすることは、日本でも、海外でも実践され、特に観光には大きな影響をもたらしています。住まう人、地域全体の「環境（景観）に配慮している」という姿勢は、来訪者に確実に伝わるものです。

旅をし、他の地域に目を向けてみると、多くの地域で様々な工夫や配慮が行われていることがわかるでしょう。そういう場所やお店には、遠方からも人が集まります。

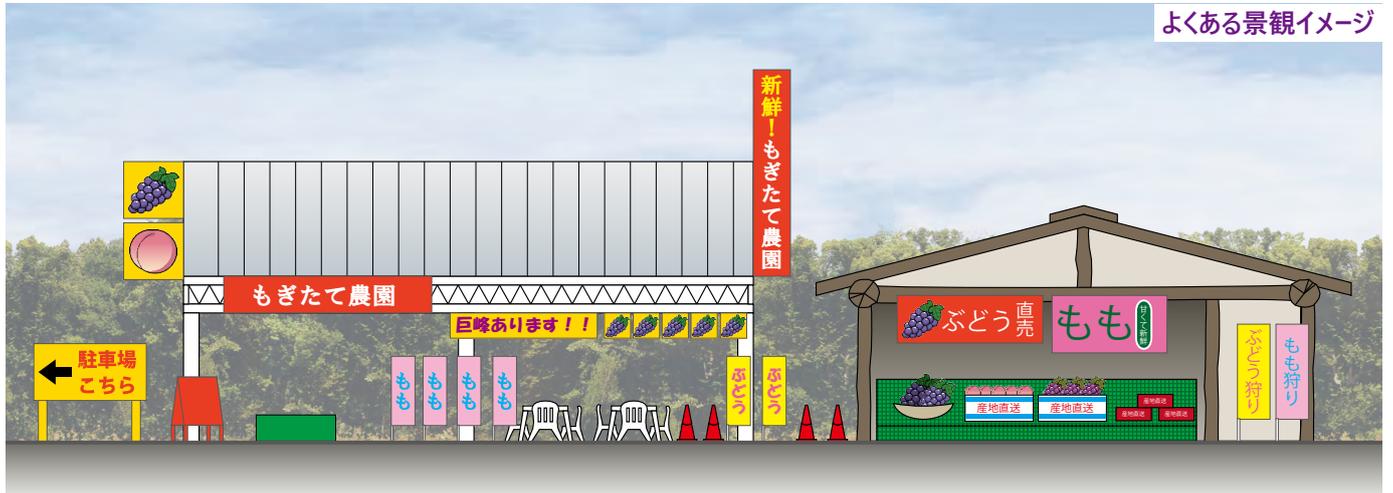


- ①…原色の表示を全体にはではなく、部分に絞った例（御殿場市）
- ②…高さを抑え、濃茶色で統一したコンビニの看板（富士吉田市）
- ③…外観に合わせ、木調で統一した看板（東京都）
- ④…周囲の建物に合わせ、色調をベージュ～ブラウンに揃えた看板（横浜市）
- ⑤…鮮やかさを抑えた看板（商店街が企業に要望し実現したもの・横浜市）
- ⑥…鮮やかな色を一か所にまとめ、大きさも小さくしているが視認性の高い看板（横浜市）

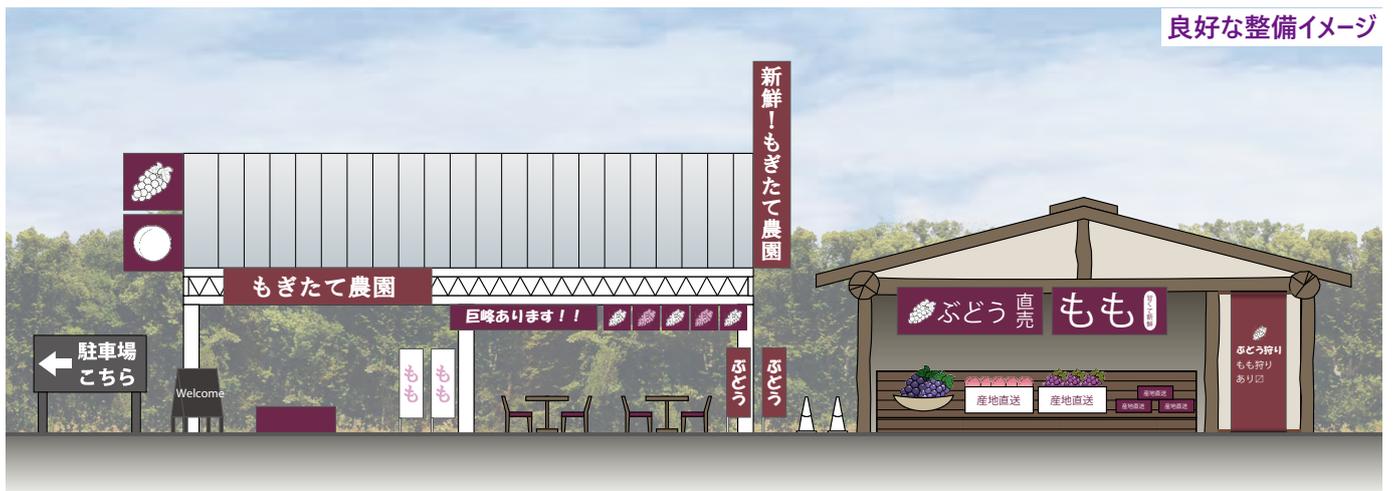


■修景案の検討

現況イメージに対し、屋外広告物がどのような印象や影響を与えているか、課題を整理した上、修景案を検討したものを修景の度合いに合わせ、2段階で表したものです。配色を整えるだけでも、整理された印象になることがわかります。



・色数を制限し、統一感を持たせた場合



・色数、看板高さ、看板数量や情報の整理等の工夫を行った場合



06

景観まちづくりのこれから

—新しい技術や設備の適正な導入を目指して

太陽光発電施設の適正な導入に向けての取り組み

詳しくは
山梨県の
Web頁を！

山梨県では、平成24年7月の再生可能エネルギーの固定価格買取制度開始後、事業用太陽光発電施設の設置が急速に拡大し、防災、景観、環境への影響が顕在化してきたことを受け、事業用太陽光発電事業者の皆さまに対して、適正な導入を促すためのガイドラインを策定し、公表することとしました。

令和元年8月には資源エネルギー庁が策定した「事業計画策定ガイドライン（太陽光発電）」の改訂や、電気設備の技術基準の解釈及び解説が改正されたことを踏まえ、ガイドラインの改訂が実施されています。

ガイドラインには市町村ごとに立地を避けるべきエリア・立地に慎重な検討が必要なエリアが記載されています。設置においては安全性とともに、景観への配慮も必要とされています。

●ガイドライン改訂の主な内容

支持物に関する記載、適切な立入防止措置及び柵塀の設置例、標識の表示例、廃棄等費用の積み立てに関する記載等

1 立地を避けるべきエリア

<https://www.pref.yamanashi.jp/energy-seisaku/guideline.html>



(1) ③文化財指定エリア

地点名	住所等	理由等
甲州市塩山下小田原上条地区	甲州市塩山下小田原1005番地周辺	伝統的建造物群保存地区として、歴史的建造物を単体でなく空間として保存を進めている地区。

2 立地に慎重な検討が必要なエリア

(2) ③市町村景観計画の景観形成拠点等

地点名	住所等	理由等
勝沼ぶどうの丘周辺	甲州市勝沼町菱山5093番地周辺	景観形成重点候補地区及び良好な眺望点として県の公共眺望ポイントに選定。 http://www.city.koshu.yamanashi.jp/shisei/add_doc/detail/景観
恵林寺周辺	甲州市塩山小屋敷2280番地周辺	景観形成重要候補地区
大藤・神金の桃畑	甲州市塩山中萩原・上萩原地区	同上
塩山温泉周辺	甲州市塩山上於曽1960番地周辺	同上
立正寺・等々力周辺	甲州市勝沼町休息・等々力地区	同上
宮光園周辺	甲州市勝沼町下岩崎1740番地周辺	同上
勝沼宿周辺	甲州市勝沼町勝沼地区	同上
京戸川扇状地東周辺	甲州市勝沼町藤井地区	同上
大善寺・柏尾古戦場周辺	甲州市勝沼町勝沼3559番地周辺	同上
駒飼宿周辺	甲州市大和町日影地区	同上
景德院周辺	甲州市大和町田野389番地周辺	同上
塩山ふれあいの森公園	甲州市塩山小屋敷1779番地周辺	良好な眺望点として県の公共眺望ポイントに選定。
牛奥みはらしの丘	甲州市塩山牛奥地区周辺	同上
勝沼ぶどう郷駅前公園周辺	甲州市勝沼町菱山3040番地周辺	同上

本体のみならず、周辺の設備や整備にも配慮が必要です

よくある景観



●高明度色（明るい色）は自然の土や緑などと対比が強く、人工的な印象が強調されやすい色調です。

良好な整備イメージ



●フェンスの色をダークグレーに変更したイメージ（フォトモンタージュ）です。周囲に馴染み、全体的に穏やかな見え方となります。

07

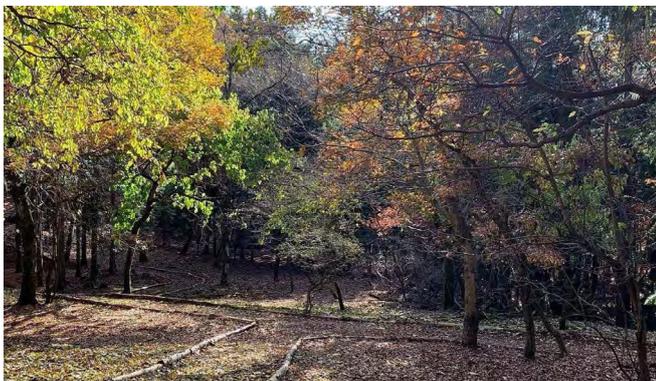
皆さんの暮らしが景観をつくります

一日々の営みが甲州市の景観を育てます

地域の資源など、あるものを磨く・活かすことが基本です

風景を守る・育てる

2011年1月、オルビス株式会社・甲州市・公益財団法人オイスカ・甲州市里山創造推進協議会の4者により「森林協定書」が結ばれ、「甲州市・オルビスの森」と命名し、長年、手の入っていなかった森を「人々が集い自然と親しむ里山として再生すること」を目標とした活動が始まりました。多くのボランティアの方々が森の整備に参加されています。



文化的景観の選定に向けて

甲州市は、平成28年度から「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群」をテーマに、県内初の国の重要文化的景観の選定を目指しています。江戸時代から続いてきたブドウ栽培、明治期に誕生したワイン産業は、日本ワイン発祥の地である勝沼地域にしかみられない文化的景観を育んできました。

全国に誇れる勝沼地域の景観を守り、次世代へつなげるべくさまざまな取り組みが行われています。

【文化財課】



お気軽にイベントにご参加下さい

甲州市ではより魅力ある景観づくりを目指し、景観セミナーやワークショップなど、さまざまな催しを開催しています。

世代交流やアンケートなどを通し、甲州市で働き・暮らしを楽しむ・まちを知るための活動は、すべて景観まちづくりに繋がっています。



08

甲州市らしい広告景観づくり

—方針を共有し、魅力ある広告景観づくりに取り組みましょう

屋外広告物を魅力的に ●配慮事項（具体策）を参考に、甲州市らしい広告景観の形成をめざしましょう

屋外広告物の運用指針（案）の目標

—また来たくなる風景をつくる—

みずみずしい果樹園、大地の恵み。
独特の地形が作り上げてきた地域の歴史と文化。
何度も訪ね、味わうことを楽しめる景観をつくります。



甲州市屋外広告物の運用指針（案）

方針1) 周囲の風景を尊重し、人工物の主張を控えめにする

- 配慮① 周囲の建物や山並み・樹木の見え方を阻害しないものとし、できるだけこじんまりとした大きさとする
- 配慮② 歩行者の目線を考慮し、人目を惹く部位や高さでの色使いを行う
- 配慮③ シンプルなデザインを心がけ、むやみに広告物の数を増やさないようにする

方針2) 甲州市の自然や歴史・文化を生かす

- 配慮④ 四季折々変化し、奥行のある自然の素材感や風合いを尊重する
- 配慮⑤ 派手な色で主張するのではなく、濃淡の対比で品よく視認性を高める
- 配慮⑥ 豊かで多様な自然の緑や草花を取り込み、うるおいあふれる空間を演出する

方針3) 立ち寄りたくなる店構えをつくる

- 配慮⑦ 通りに対し、圧迫感や威圧感を与えないつくり方とする
- 配慮⑧ まちゆく人の目を楽しませる工夫を考え、歩行者空間に豊かな彩りを添える
- 配慮⑨ 日々の清掃や定期点検を心がけ、清潔さや安心感を提供する

方針 1) 周囲の風景を尊重し、人工物の主張を控えめにする

配慮①

高さや面積を抑える

高さのある屋外広告物は、主に遠景からの見え方に対し、人目を惹く効果を持っています。

一方、目的に近づいた際には圧迫感を与えたり、周囲の景観との不調和が強調されやすい存在です。

現代はカーナビやオンラインショッピングが普及していることも考慮し、突出した見え方を再考する時期に来てます。



配慮②

鮮やかな色は部分的に使う

統一感や連続性の中に、ちょっとした変化がある、という「色彩の構造」をつくるのが重要です。

歩行者の視界は視野角 20 度程度と言われており、歩いているときは少し前方を見ながら、主に建物の一階部分に目線を合わせています。

低層部の表情が豊かである程、歩くのが楽しくなります。



配慮③

色数を抑える・まとめる

鮮やかな色は多色を乱雑に使うよりも、単色で潔く、使う部位や要素を限定する方が、色面のインパクトや印象が引き立ちます。

屋外広告物を何が何でも地味な色に、というわけではなく、「より印象的に・魅力的に」みせる工夫を考えましょう。



方針 2) 甲州市の自然や歴史・文化を生かす

配慮④

質感豊かな素材を使う

自然が豊かな甲州市では、時間の経過とともに味わいを増すような、質感豊かな素材がなじみやすい場面が多くあります。特に飲食や物販施設では、目でさまざまな感触を楽しめるような、五感への豊かな刺激は不可欠です。



配慮⑤

濃色に白抜きで見やすく

目立たせるためにはとにかく派手な色を、というのは大きな誤解です。濃淡のコントラスト（対比）があれば、遠くからでも人目を惹かせることは可能であり、周辺の景観ともなじみつつ、落ち着きある雰囲気をつくることができます。



配慮⑥

店先を緑や花で彩る

季節感に大きな役割を果たすのが自然の緑です。通りに連続する街路樹等があることももちろん重要ですが、店先に設えられた季節感あふれる緑は、まちの風景に豊かな潤いを与える重要な要素です。

プランターが一つあるだけでも効果があります。



方針3) 立ち寄りたくなる店構えをつくる

配慮⑦

開放的にすっきりと

店内の様子が見渡せる、開放的一階回りは、派手な看板ではなくとも人目を誘います。開放的な店構えに対し、メニューなどが手書きで書かれた看板は人目を誘う効果が高く、シンプルな店構えだからこそ、ちょっとした工夫が印象的に見える場合も多々あります。



配慮⑧

そのお店ならではの工夫

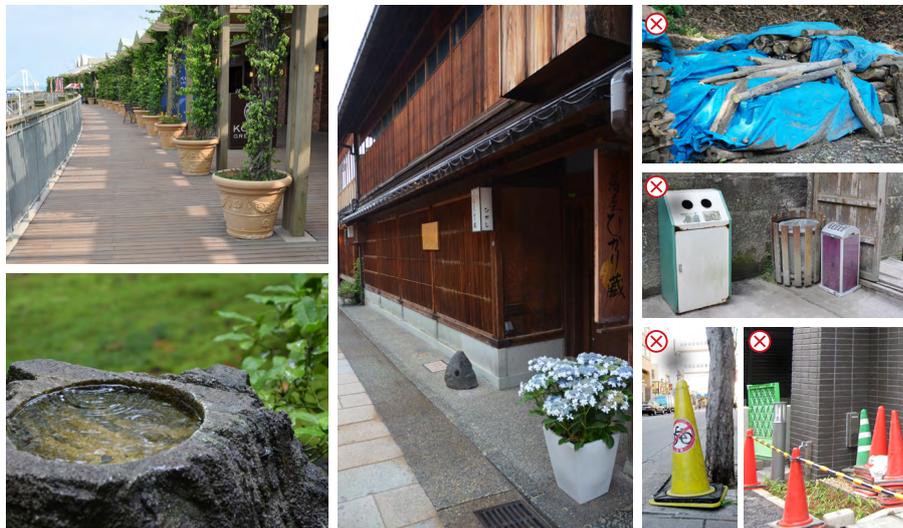
のれんやちょうちん、販売している商品など、「ゆらぎ」のある店先のちょっとした設えは、歩く人の目を誘い、まち歩きを楽しくさせる要素の一つです。そのお店ならではの工夫や演出は、深く記憶に残る体験に繋がります。



配慮⑨

いつもきれいに

屋外に設置される広告物は、風雨にさらされるため、定期的な点検やメンテナンスは欠かせません。痛んだり傷ついたまま放置しておく、強風や大雨により落下したり、歩行者や家屋に大きな被害を与える危険性もあります。日ごろから清掃し、清潔さを心がけることは、安心・安全な景観づくりに繋がります。



地域主体のまちづくり —まちづくり会社の活動事例

景観と
観光・産業は
両立
できます！

まちづくり会社をはじめとする様々な担い手と行政が連携することで、従来とは異なる新しい発想でまちづくりを進める取組が全国各地で実施されています。

国土交通省は、まちづくり会社等の数や組織形態・主な活動内容等を整理し、文献調査や関係者へのヒアリングを実施しました。その結果は、まちづくり会社等や国・地方公共団体にとって参考となるよう、代表的な取組を行なっているまちづくり会社の取組事例集としてまとめられています。

まちづくり会社等の活動事例集

活動類型別の代表的な 30 事例の紹介







国土交通省都市局まちづくり推進課

国土交通省 まちづくり会社等の活動事例集
https://www.mlit.go.jp/crd/index/case/pdf/120405ninaite_jireishuh.pdf



施設整備・イベント企画・地域交通など、活動類型別に整理されわかりやすい！

NPO団体の活動事例もたくさん！

活動資金の構成や人員体制などが一覧で整理されています

稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ 100」

内閣府では、平成 28 年 12 月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略 2016 改訂版」に基づき、地方の平均所得の向上を図る観点から、地方都市における地域の「稼ぐ力」や「地域価値」の向上を図る「稼げるまちづくり」の有望事例の概要を整理し、「地域のチャレンジ 100」として取りまとめました。

「地場産業を核とした稼げるまちづくり」の事例に甲州市のワインツーリズムの推進が取り上げられており、地域の資源を活かしたまちづくりが着実な成果をあげていることがわかります。

内閣府地方創生推進事務局
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/seisaku_package/naiyou.html



【山梨県甲州市】国内有数のワイン産地を活かしたワインツーリズムの推進

- ・ワインの国内生産の約4割を占める山梨県内のワイナリーの半数が集積する甲州市において、ワインの原産地呼称認証制度等によるブランド力向上や近年のワインブームと相まって、成長が期待されるワイン観光をテーマとするまちづくりを推進。
- ・ワイン関連の観光施設整備や民間の新規ワイナリー開業等を含めた新たなワインツーリズムの取組により、インバウンドを含めた観光客誘致を図るとともに、これを契機としたワイン輸出の拡大を目指す。

主なハード事業

○ワインをテーマとした観光施設整備

- ・明治36年に建造された鉄道トンネルをワインの貯蔵施設として活用した「勝沼トンネルワイナリー」を市が整備（H17年）。ワイナリーや個人に有料で貸し出すとともに、地元ワインの販売等を行う観光拠点となっている。
- ・ワインレストランや宿泊施設等を備えた市が運営する観光施設「勝沼ぶどうの丘」(S50年オープン)には、外国人観光客も含めて年間60万人が利用しており、ワイン観光の拠点となっている。

○工場跡建物を活用した新規ワイナリーの開業等

- ・甲州ワイン人気の高まりから、半導体製造工場を改装しワイン醸造所に転換した新規ワイナリーの開業や、観光客数を増加に向けた改築など、民間事業者による投資・事業拡大が進められている。

主なソフト事業

○甲州市原産地呼称ワイン認証制度

- ・甲州市内及び山梨県内で収穫されたぶどうを市内において自社醸造したワインを認証する制度であり、ぶどうの原産地が市内であることを消費者に保証することで、甲州ワインのブランド力や信頼性を向上。（市内18社のワイナリーで119銘柄が認証取得）

○ワインツーリズムの推進

- ・ワイン産地の認知度を向上させて更なる観光促進を図るため、一般社団法人ワインツーリズム等が主体となり、甲州市及びその周辺にあるワイナリーが参加し、バスでワイナリー巡りができるイベントを実施。近年では外国人観光客にも認知され、国内外の多くの観光客が参加。（H28年11月には、開催当初のH20年の2倍となる約2,500人が参加）

＜官民協働＞

【民】ワインツーリズムの実施、甲州ワインEU輸出プロジェクトが主体となったロンドン等での海外プロモーション

【官】原産地呼称ワイン認証制度創設、ワイン観光の拠点施設整備

＜市の総合戦略における関連KPI＞

- ・新規ワイナリー創業数 1社（H31）
- ・ワイン用ぶどう栽培新規就農者 5名（累計）（H31）

今後の取組

- ・インバウンド観光も含め山梨県内のワイナリー巡り観光の活性化
- ・EUやアジア市場向けのワイン輸出拡大に向けた販路開拓等

甲州市 年間観光客数



甲州市 景観まちづくりヒント集 令和元年 12 月 20 日

甲州市役所都市整備課 計画指導・景観担当

電話 0553-32-5072（課直通）／FAX 0553-32-1818